

# 非車載型「配送管理システム」発売迫る



端末 (FOMA-05B) は必要最小限のアプリしか搭載しない。「バーコードで読んだデータも自動的にサーバーに送られる」(大野氏)

## セキュリティ事業で培った技術力を応用

配送管理システムといえば、車載型の機器を使うやり方がメイン。しかしそれでは、トラックの自前保有が難しい中堅以下の輸送会社は蚊帳の外に置かれてしまう。しかも、高価なサーバーもセットで購入しなければならぬ、となれば、ことさらだ。そういった困りごとを解消するソリューションが近く発売される。2004年設立の、従業員数12人のIT系ベンチャーは、物流業界の救世主となるか。

## グローバル・アドバンス

「創業当時、物流業界向けの仕事は想定していなかった。だからこそ固定観念に縛れず、自由な発想が生まれた」  
グローバル・アドバンス(東京・中央区、以下グローバルAD)の社長大野和人氏は言う。

「セキュリティ事業で培った技術力を応用して、配送管理システムを開発した。従来の車載型とは異なり、非車載型で、かつ、低コストを実現した。これは、業界にとって大きな変化をもたらすと思う」

大野氏は言う。グローバルADは「携帯端末」を利用するシステムを今年にも正式に発売する予定だ。すでに大手物流会社への納入が決まっているが、大野氏は中堅以下の業者もターゲットにしている。指摘する。

「トラックをすべて自前で揃えられない中堅以下の業者の場合、非車載端末が威力を発揮する。協力業者のドライバーに携帯端末を渡すだけで済

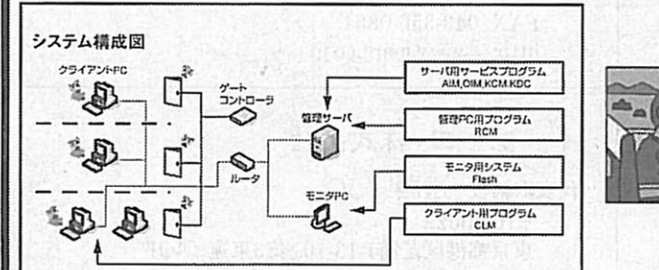
むからだ。クラウドコンピュティンクがベースにあるため、料金面でも訴求力があるはず」  
グローバルADの配送システムの概要を説明しよう。

「FOMA-05Bの代金は、バーコードスキャナが搭載されていることも、当該する届け先のみ定を運ばば問題は無いと思う」

「基本的には技術者集団だから、営業面は成長途上の段階。今はコンサルタントから知恵を借りている」  
グローバルADがこうした配送システムを手掛けるのは伏線がある。同社はもとより、スマートフォンなどのGPS機能を活用したセキュリティシステムで実績を上げていた。これは当人の経路情報に力ギの役割を担わせるといふ革新的なもので、特許を申請中だ。納入先には京都大学のIPS細胞研究所もある。

## クラウド活用の低料金で中小業者市場を開拓する

GPSなどの位置情報システムや局所的な通信システム、オリジナルの相対座標システムを利用した、当社独自の認証システム「KGOフレームワーク」を使用したシステムです。  
高度なセキュリティと柔軟なシステム構築をサポートすることが可能です。今までの防犯システムと情報セキュリティ、および入室管理システムを統合して管理運用できるシステムです。個別のユーザと個別のゲートの管理、および入出履歴や出退勤管理との連動も可能になります。



「FOMA-05Bはスマートフォン同様、Windowsモバイルを搭載しており5秒ごとの測位が可能。技術革新を味方につけたNTTドコモとの協業による本格的なGPS利用の実現と言える」  
ドライバーを管理するのは事務所側が相対するのはパソコンの画面だ。管理者はその画面を通じてドライバーの配送ルートを設定するのだが、画面に映し出された地図のクリックが基本と、作業は簡素化されている。

「専用通信回線が必要でサーバーも自前となると、コスト負担が大きいく中堅以下の業者は導入が難しい。クラウドの普及は画期的な好材料だ」  
初期投資はバーコードスキャナが搭載されたFOMA-05Bの購入費用のみで、10万円弱。毎月の利用料金は、端末1台に

「弊社がセキュリティシステムが物流関係者にも知れ渡り、配送管理システムの開発に着手するの理由は、技術面で自信があった。うちのシステムは海外でも使用可能なもので、中長期的には中国市場への進出も考えている。そのためにも、営業部門を強化しなければならぬ」(大野氏)